

書 評

小浜市史編纂委員会 編：

【小浜市史 第12巻（絵図地図編）】

小浜市 1993年6月

A4判 本冊（図判・解題）156ページ

カラー複製図36枚 13,000円

小浜市史編纂委員会は資料編と通史編を合わせて全13巻より成る市史の編さんを進めており、このほど第12巻の絵図地図集を刊行させた。この書の中心的な編集・執筆者は、福井県史編纂室主査の海道静香氏と京大人文科学研究助教授の藤井譲治氏である。福井県では1989年に『福井市史』、1990年に『福井県史』がいずれも絵図地図集を資料編の1巻にまとめて刊行しており、今回の『小浜市史』の刊行によって、福井県内の主要な絵図地図が数多く収録されて喜ばしい限りである。

本書は市史の資料編という性格からして、収録される絵図地図は地域的に限定されたものであるが、関係資料の所在調査は単に地元に限ることなく、広く県外におよんでいる。全国的に関係資料の調査を行なって、真に史料的価値の高い絵図地図を選定して収録しようとする編集姿勢が貫かれている。また、収録の各資料についての解題は、地図史、歴史地理学、歴史学の研究成果を踏まえて堅実な説明がなされているうえ、新しい知見が随所に示されている。そのため、本書の刊行は、単に福井県の地域史ないし歴史地理研究に寄与するばかりか、わが国の地図史研究にも大きく貢献することになる。

本書は既刊の『福井県史 資料編16上、絵図・地図』（以下、『福井県史』と略称）の収録図との重複をできるだけ避ける配慮もなされている。別刷り複製図一揃いと図版・解題の冊子からなり、帙入りとした形態は『福井県史』と同じであるが、同県史がB4判サイズであったのに対して本書はそれより一段小型のA4判を採用している。扱いやすさを考慮しての改良であろう。別刷り複製図の大きさは、A1判、A2判、A3判の3つのサイズに統一されている。また、この種の編さん物の多くがハードカバーで装丁されることが一般的であるのに対して、本書は『福井県史』と同様にソフトカバーであるため、軽量でまことに利用しやすい。『福井県史』編さんの経験が生かされたのであろう。

この書の編さんのための基礎作業として、現存する関係絵図地図のリストアップを行なっているが、その作業には、福井県史編纂課が『福井県史』を編さんするために集めた資料カードが活用され、能率的な検索ができたようである。小浜市史編さんのための調査で作成された資料目録と福井県史編纂課の絵図地図資料カードで検索し、リストアップされた関係資料は小浜市内86機関・家に727点、市外の34機関・家に101点、全部合わせて828点に及んでいる。そのうちから精選して本書に収録された絵図地図は67点である。うち9点は国立国会図書館、東大総合図書館、京大文学部博物館など県外機関の所蔵する絵図である。

収録形態の内訳は、カラー別刷りによる複製図37点、本冊（図版・解題）に口絵として収録したカラー図版30点である。そのほかにも本文中の挿図として31点が収録されている。

複製図ないし図版として収録されたものの内容は、時代的には中世1点、近世46点、近代20点である。わずか1点の中世図は京都府立総合資料館所蔵の百号文書中に含まれる「東寺領若狭国太良荘樋指図」であって、寛正2（1461）年頃の作成と推定されている荘園の用水争論図である。解題では現在の字切図を参考にして当該地域を比定し、指図に描かれた争論内容が詳細に考証、解説されている。

近世絵図は小浜市立図書館の酒井家文庫に含まれる各種絵図を中心に、旧藩士の家に残された町絵図が多く現存している。若狭国の国絵図は江戸幕府が作らせたものは正保と天保のものしか残されていないが、両方とも既に『福井県史』に収録されているため、内閣文庫所蔵の天保国絵図については収録を止めている。ただし、正保国絵図は酒井家文庫の「若狭敦賀之絵図」であって、地元に残る基本国図であることから、重複しながらも採用せざるを得なかったのであろう。

幕府の命令で作成された国絵図以外にも、藩政の必要から、国域ないしは藩領域の絵図が作成されていた。そのような国絵図を含めると、若狭の国絵図は県内外に合せて41点もの伝存が確認されているが、そのうちの4点が複製図にして収録されている。若狭国は小国ながら、国絵図ともなればその図幅は

いずれも大きくて、閲覧には不自由な思いをするものであるが、机上で複製図を広げることができることはまことに有り難い。ただ欲をいえば、収録された複製図と図版の各個に題目と所蔵先が記されているものの、図幅の大きさは示されていないので、それがあれば一々頁をめくる手間が省けてより便利であると思われる。

酒井家文庫所蔵の若狭国の正保国絵図は従来、元禄国絵図と誤認されていたが、その誤認の原因と、これが正保2年に幕府へ提出した国絵図の写しである証拠が解題では詳しく解説されている。また、幕府撰以外の国絵図についても若狭国の輪郭によって4種類に分類し、そのうちの代表的なものが1点ずつ複製の対象となっている。

小浜は寛永11(1634)年以来、酒井氏若狭藩の城下町であったことから、小浜の城下絵図は酒井家文庫を中心に多数の現存が確認されている。そのため、城下絵図は複製図と図版を合わせて20点をも収録し、本書の中心的部分となっている。それらの城下絵図を図示内容から5つの類型に分けて、未収録図をも視野に入れての綿密な解説がなされている。

また、若狭国は北に若狭湾と日本海をひかえて、古来、漁業の盛んな地域であった。近世にも、リアス海岸で耕地に恵まれない本地域では漁業に依存して生活する人たちが多く、浦々間で漁場の境界取決めや、その境界をめぐる争いなどがあって、「漁場図」と総称されるような近世絵図が地元で数多く残されている。そのような漁場図9点を図版にて収録しているのも、地域とかかわる本書の特色であろう。

県史や市史の絵図地図資料編であれば、収録する資料個々の全体像と図示・記載内容が判読できるような収録の仕方が最も大切な要件である。次にはその要件を満たしながら、できるだけ扱いやすいような工夫が要求される。本書はまさしくそのような要件を満たし、利用者の要求に応える待望の絵図地図資料編である。高い評価を受けている既刊の『福井県史』とともに、学術的に極めてレベルの高い編纂物として、本書の編集・執筆を担当された関係者に深く敬意を表したい。

(川村 博忠)

矢ヶ崎 典隆 著：

『移民農業——カリフォルニアの日本人移民社会』

古今書院 1993年10月

A5判 319ページ 7,400円

今日、カリフォルニア州は約83,000農場と約850万エーカーの灌漑農地で、250種類以上の作物を栽培している。この多種類の作物栽培によるカリフォルニア州の農業生産性は、過去44年間、アメリカ合衆国50州の中で、その生産額と収入額において第1位の座を確保し続けており、さらに1991年の農業生産額においては、州の20位までの農畜産物のうち、12品目が合衆国で第1位、5品目が第2位を占めるように、その生産性の高さに極めて大きな特徴を見せている。本書の話題で日本人移民が中心的農業に据えた園芸農業の野菜や花卉も、この20位以内の中に位置づけられ、そして現在、これらの出荷・販売は州や国内市場だけでなく、外国市場にも強い影響力を持つなど、これらの栽培・生産と生産性の高さも注目されている。

日本の伝統的農業の精神を強く受け取ったまま渡米した多くの日本人移民は、新天地・新世界への希望よりも不安を抱えたまま、最初は借地で、そして小規模な自作地で農業経営を始めた。当然、この農業は家族労働力を駆使しても、生きるために想像を絶するものであったことは言うに及ばない。日本人移民は試行錯誤の連続から、小規模でも集約的な農業経営の方向性を野菜や花卉農業に託し、異国での生活に労苦を重ねながら、また多くの挫折を味わいながら、新進気鋭の精神力で自らの農業経営の中心として積極的にかかわった。その後、農業経営者の増加と規模拡大の過程で、彼らは生産組合を結成し、さらに、青果物の流通や金融組織の組織化と活動にも、その才を発揮していった。しかしながら、第二次世界大戦による強制収容は、日本人農業の継続を中断させることになり、このことは戦後における彼らの農業経営存続に大きな陰を投げかけることにもなった。このように本書は、日本人移民が想像を絶する苦労を経験しながらも、異国において農業とかかわり、農業経営を導入し、存続、挫折、そして再編するという過程を時系列的に報告している。

本書の特徴は、カリフォルニア農業が穀物栽培から集約的農業に移行していく中で、日本人移民がこの発展に大きくかかわった様相を、多くの資料と事例研究を通じて、極めて詳細に分析している点にあ